

授業概要

本授業は、3年次、及び4年次の春期末までの2学年にまたがる授業である。

- 3年次の介護等体験実習、4年次の教育実習に向けて
実習に取り組むための準備を行う。実習の事前になすべきことを確認し、実習がより有意義なものになることを目指す。
- 3年次の介護等体験実習、4年次の教育実習を終えて
各実習後は、実習を振り返ることで教職に対する理解を深める。なお、高等学校の免許のみ取得する場合でも、介護等体験に関わる授業を欠席することは認められない。
授業実施日の具体的な日程については第1回目の授業時に示す。

授業計画

第1回	実習全般に対する理解と4年次の教育実習校への内諾依頼の指導
第2回	特別支援学校実習に向けての事前指導
第3回	社会福祉施設における介護実習に向けての事前指導
第4回	社会福祉施設での実習体験の報告会と反省、特別支援学校実習の事前指導
第5回	特別支援学校での実習体験の報告会と反省
第6回	教育実習での参観実習の方法①
第7回	教育実習での参観実習の方法②
第8回	介護等体験実習全般の事後指導 「実習ノート」提出
第9回	教職課程における実習の意義についての確認
第10回	「実習の手引き」の内容確認と実習記録の書き方①
第11回	「実習の手引き」の内容確認と実習記録の書き方②
第12回	校務分掌の確認・学習指導要領の各「領域」の確認
第13回	実習報告会
第14回	実習レポートの作成
第15回	実習レポートを踏まえた生徒指導・学習指導の再点検
第16回	実習全般のまとめ 実習記録の返却

到達目標

- ・教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高めることができる。
- ・教育実習の意義を理解できる。
- ・自らの実習経験を客観的に分析し、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等を明確にすることができる。

履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第1回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取る。授業日、授業教室等については、教員・保育士養成センターの掲示で確認すること。

予習・復習

予習：各回における、「実習の手引き」、学習指導要領、生徒指導提要の該当箇所を精読する。
復習：毎回の授業で出題された課題を確認する。

評価方法

受講態度 50%・提出物の内容 10%・実習記録及び介護等体験記録ノートの内容 40%を基本とし、総合的な観点から評価を行う。

教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行う。なお、履修者の状況によっては中間テストを行う場合がある。評価方法の詳細は、第1回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

「介護等体験の手引き」「教育実習の手引き」「介護等体験記録ノート」「教育実習記録」
(いずれも授業時に配布する)

授業概要

教育実習を行うに当たっての事前指導と教育実習終了後に行う事後指導とに分けられる。事前指導では、担当がそれぞれの学校教育現場での教員としての実務経験を基に、教育実習に関する諸手続き、教育実習の意義や目的、学習指導を行う際に必要不可欠な学習指導案の作成、模擬授業の内容等について指導する。事後指導では、教育実習において作成した学習指導案、その授業記録を基に学習指導のあり様について考察する。

授業計画

第 1 回	教育実習の意義や目的	
第 2 回	学習指導案の意義	
第 3 回	学習指導案の書き方	
第 4 回	学習指導案の作成(細案と略案)	
第 5 回	学習指導案の検討	
第 6 回	小学校での授業の参観	※学外活動
第 7 回	模擬授業の準備(発問計画の作成)	
第 8 回	模擬授業の準備(板書計画の作成)	
第 9 回	模擬授業の準備(教材・教具の作成)	
第 10 回	教育講演会	※外部講師招聘
第 11 回	模擬授業の実施	
第 12 回	模擬授業(授業記録を基に)の検討	
第 13 回	教育実習の直前指導	
第 14 回	教育実習(評価授業の授業記録を基に)の報告	
第 15 回	授業記録を基に授業分析	
第 16 回	授業分析の発表と教育実習の反省	

到達目標

1. 教育実習の意義や目的について理解できる。
2. 学習指導案を作成することができる。
3. 模擬授業を実施し、その逐語記録を取ることができる。
4. 逐語記録を基に授業を分析し、考察することができる。

履修上の注意

本授業の履修者は、小学校へ教育実習に行くことを前提としている。したがって、授業に参加する際は実習に参加していると捉えて臨むこと。遅刻・欠席は厳禁である。また、授業への取り組みが実習に相応しくないと判断した場合、実習に行けなくなる場合もある。

教育に係わるボランティア活動に積極的に参加すること。また、実習に関わるガイダンス等に必ず出席すること。

予習・復習

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。授業内容に関連した課題は、次の授業時までにとまとめておく。

評価方法

ポートフォリオ(授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて、作成した学習記録)(20%)、課題(30%)、レポート・テスト(20%)、模擬授業を含めた平常点(30%)を基に評価する。

テキスト

- ・教科書名：『小学校学習指導要領』（最新版）
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：
- ・出版年（ISBN）：

『教育実習(小学校)のてびき』やその他の資料については、適宜配布する。

授業概要

幼稚園教諭志望の学生が、なるべく早い段階で現場を知り、幼稚園での教育実習に役立つ体験の場を用意して、教員としての資質能力の向上を図ることを目的とした授業である。この授業では、幼稚園に実習する前に学内で実施する「事前授業」、幼稚園での「実習」、実習後に学内で行われる「振り返り」で構成されている。実習前に行う学内授業では、実習するにあたり、必要とされる知識及びスキルを指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	幼稚園の一日の流れ、実習内容などの理解
第 3 回	実習記録の書き方、お礼状の書き方
第 4 回	実習直前オリエンテーション（諸注意）
第 5 回	幼稚園オリエンテーション
第 6 回	
第 7 回	教育インターンシップ (1) 活動期間：春期…9月の間の5日間。 (2) 活動時間：1日8時間（休憩時間を除く）を上限とし、5日間、30時間を確保する。 (3) 活動内容：子どもとの触れ合う中で、子どもの発達、園生活の流れや教員の仕事内容について理解を深める。
第 8 回	
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	
第 16 回	振り返りと今後の課題

到達目標

- (1) 幼稚園での現場体験を通して、教員という仕事の魅力を感じ取ることができる。
- (2) さまざまな子どもと直接関わりながら、子どもの多様性を理解することができる。
- (3) 大学で学んだ知識を捉え直し、新たな学習課題や学習意欲をもつことができる。

履修上の注意

- (1) 教育インターンシップⅠを履修するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①幼稚園の課程登録をしていること。
 - ②教育インターンシップの活動期間が「保育実習」と重ならないこと。
 - ③教育インターンシップに必要な書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了すること。
- (2) 講義や活動の欠席は、特別の場合を除き認められない。認められた場合でも、講義や活動の振替が必要となる。

予習・復習

- (1) 予習
 - ①大学オリエンテーションなどの講義を通して、現場で活動する心得や姿勢を意識する。
 - ②幼稚園オリエンテーションの打ち合わせを通して、活動に必要な準備を進める。
- (2) 復習

活動中は毎日、記録に気づきや学びを記入して、活動の振り返りに努める。

評価方法

大学の講義に対する理解 20%、幼稚園での活動に取り組む姿勢 40%、学生の記録への記述 40%

テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。